

2010年12月21日
株式会社日立製作所

日立の昇降機生産台数が世界累計 50 万台を達成

国内工場における昇降機の累計生産台数が 30 万台を達成

株式会社日立製作所(執行役社長:中西 宏明/以下、日立)は、このたび、昇降機(エレベーター、エスカレーター、動く歩道)の国内工場における生産台数が、2010年12月に累計 30 万台を達成しました。これにより、海外工場における昇降機の実生産台数と合わせて、世界での累計生産台数が 50 万台を超えました。

2010年に創業 100周年を迎えた日立は、今後も、日本・中華人民共和国(以下、中国)・シンガポール共和国(以下、シンガポール)の昇降機事業統括拠点を中心に、各マーケットに根ざした事業活動をグローバルに展開し、安全性・快適性・効率性に優れ、環境にも配慮した昇降機を提供していきます。

■日立の昇降機事業の歴史 ※別紙年表参照

日立は1920年に当時の亀戸工場(東京都)においてエレベーターの研究に着手し、1932年には東京電気株式会社川崎工場にエレベーターの第1号機を納入しました。1968年には、日本初の超高層ビルとされる霞が関ビルディングに、当時日本最高速の定格速度 300m/分の超高速エレベーターを納入しました。その後も、オフィスビル、マンション、商業施設などはもちろん、東京都庁第一本庁舎(1991年納入)、六本木ヒルズ森タワー(2003年納入)など、日本を代表する高層・超高層ビルで、多くの人々に日立の昇降機が利用されています。現在、日本における昇降機の研究開発・製造拠点である茨城県ひたちなか市の水戸事業所では、年間約1万台の生産能力を有しており、国内での累計生産台数は、1986年に10万台、1997年に20万台を超え、2010年12月に30万台を達成しました。30万台目の昇降機(エレベーター)は、ソニー株式会社の「大崎駅西口C地区開発計画」向けに納入します。

海外においては1966年に香港に販売会社を設立して以来、1972年にシンガポールに昇降機の製造拠点を設立、1991年にはタイ王国での生産も開始しました。また、1995年には中国の広州市に、現在の日立電梯(中国)有限公司の前身となる日立電梯(広州)有限公司を設立し昇降機を生産を開始しました。その後、中国市場の拡大に応じて天津(2005年)、上海(2008年)でも生産を開始し、現在、中国3工場で年間約3.5万台の生産能力を有しています。2008年には、中国大陸の最高層^{*1}ビルである上海環球金融中心に世界最大級^{*1}の超高速・大容量ダブルデッキエレベーターを納入、クウェート国では同年、最高層^{*1}ビル Al Hamra Mixed-Use Complex 向けに定格速度 600m/分の超高速エレベーターを受注するなど、グローバルに事業を展開しています。海外での累計生産台数は、2007年に10万台を突破し、2010年に20万台を達成しました。

この間、日本ではインバーター制御方式の標準型エレベーター^{*2}(1984年発売)、複数のエレベーターの動きを予測して効率良く運転する群管理システム「FI-600」(2005年発売)など、昇降機

業界をリードする技術を実用化してきました。運転制御にインバーター制御方式を採用し、安全性や省エネルギー性を高めた 2008 年発売のエスカレーター「VX シリーズ」と省スペース型の「VXS シリーズ」は、そのリニューアル工法とともに、2010 年度の「第 7 回エコプロダクツ大賞」エコプロダクツ部門の「経済産業大臣賞」を受賞しました。

■昇降機事業のさらなる強化に向けた取り組み

2010 年 4 月、水戸事業所にエレベーターの研究施設としては世界で最も高い *1 地上高 213m の「G1TOWER」が完成し、世界最高速 *1 となる定格速度 1,080m/分の超高速エレベーターなど「グローバル No.1」製品の開発に向けた取り組みを進めています。また、同年 12 月には、上海の研究開発・製造拠点である日立電梯(上海)有限公司の上海研究開発センタに、エレベーターの研究施設としては中国で最も高い *1 地上高 172m のエレベーター研究塔が竣工しました。中国の高層ビルに対応した超高速機種や高速・大容量機種の製品開発を加速しています。さらに、同年 10 月には東南アジア・インド・中東地域の昇降機事業統括会社をシンガポールに発足し、グローバル展開を強化しています。

これらのグローバル施策により、日立は、昇降機の新設受注台数の世界シェアを 2009 年度の 8% から、2012 年度には 10%に拡大することをめざしています。

*1 2010 年 12 月現在、日立調べ。

*2 標準型エレベーター：一般的なオフィスビルやマンション、店舗など向けに、速度、サイズ、意匠品などを規格化したエレベーター。

■お問い合わせ先

株式会社日立製作所 都市開発システム社 経営企画本部 [担当:野中]
〒101-8010 東京都千代田区外神田四丁目 14 番 1 号 秋葉原 UDX
電話:03-4564-6613 (直通)

■日立の昇降機事業の歴史(年表)

西暦	元号	沿革
1920	大正 9	亀戸工場(当時)でエレベーター研究開始
1932	昭和 7	東京電気株式会社川崎工場にエレベーター第 1 号機(貨物用)を納入
1933	8	東和アパートに乗用エレベーター第 1 号機を納入
1937	12	大鉄百貨店にエスカレーター第 1 号機を納入
1956	31	日立ビルディングサービス株式会社(現 株式会社日立ビルシステム)を設立
1961	36	水戸工場(現水戸事業所)で昇降機生産を開始 客船「氷川丸」にオートライン(動く歩道)第 1 号機を納入
1962	37	大西衣料店に日本初の傾斜式オートラインを納入
1966	41	香港に日立エレベーターエンジニアリング(香港)社を設立
1967	42	水戸工場にエレベーターの研究施設として当時世界一高いエレベーター研究塔完成(地上高 90m)
1968	43	日本初の超高層ビル(霞が関ビルディング)に、当時日本最高速の超高速(300m/分)エレベーターを納入
1972	47	シンガポールに日立エレベーターエンジニアリング(シンガポール)社を設立 NHK 放送センタービルに世界初の即時予約式全自動群管理エレベーターを納入
1974	49	新宿住友ビルに当時世界最高速の超高速(540m/min)エレベーターを納入
1984	59	インバーター制御方式を採用した標準型エレベーターを発売
1986	61	国内累計生産台数 10 万台を達成
1989	平成 1	岡田屋モアーズ川崎店に世界一短いエスカレーターを納入
1991	3	タイにサイアム日立エレベーター社を設立 東京都庁第一本庁舎にインバーター制御超高速エレベーター(540m/分)などを納入
1993	5	当時世界最高速 810m/分のエレベーターを開発
1995	7	中国に日立電梯(広州)有限公司社を設立
1997	9	国内累計生産台数 20 万台を達成
2003	15	六本木ヒルズ森タワーに 300m/分、積載質量 2.9t(1.45t×2)のダブルデッキエレベーターを納入
2004	16	中国・広州に日立電梯アジア開発センタを設立
2005	17	中国・天津の昇降機の新生産拠点(日立楼宇設備製造(天津)有限公司)が操業開始 エレベーターの待ち時間の短縮と長待ち発生確率低減を図った群管理システム「FI-600」発売
2007	19	長周期地震動に対応した新方式のエレベーター地震時管制運転システムを発売 海外累計生産台数 10 万台を達成
2008	20	安全性・省エネルギー性を向上したエスカレーター「VX シリーズ」を発売 インドに昇降機の販売・サービスを行う日立リフトインド社を設立 中国・上海における昇降機の新生産拠点、日立電梯(上海)有限公司が生産を開始 Al Hamra Mixed-Use Complex(クウェート国)の超高速エレベーター(600m/分)を受注 上海環球金融中心に世界最大級 ^{*3} の超高速・大容量ダブルデッキエレベーター(速度 480m/分、積載質量 3.6t(1.8t×2)、定員 48 人(24 人×2))など 6 台を納入
2010	22	水戸事業所にエレベーターの研究施設として世界一高い ^{*3} 研究塔「G1TOWER」完成(地上高 213m) シンガポールに東南アジア・インド・中東地域の事業統括会社、日立エレベーター・アジア社を発足 上海研究開発センタにエレベーターの研究施設として中国一高い ^{*3} 「上海研究塔」完成(地上高 172m) 国内累計生産台数 30 万台達成(ソニー株式会社の「大崎駅西口 C 地区開発計画」にエレベーターを納入予定) 海外累計生産台数(20 万台)とあわせて、世界で累計生産台数 50 万台を達成

*3 2010 年 12 月現在、日立調べ。

以上

このニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。
